

令和4年度 第3回 城陽市環境審議会 議事録

日時	令和4年11月21日（月） 午前9時30分～午前11時40分	
場所	城陽市役所西庁舎 401・402 会議室	
議題	◆ 諮問 ◆ 会議 城陽市地球温暖化対策実行計画の諮問について	
出席者	委員	新川会長、中川副会長、北川委員、中原委員、田浦委員、岡本委員、河岸委員 （オブザーバー）城陽環境パートナーシップ会議 大野会長
	行政	奥田市長、森田市民環境部長、堤市民環境部次長、成田環境課長、山田

◆ 諮問

< 質疑等の概要 >

◆ 城陽市地球温暖化対策実行計画の諮問について

事務局より説明。

副会長： 構成として、区域施策編では、市、市民、市民団体、事業者まで含めた取組を入れていますが、16 ページまでで誰が取り組むのか分からないので、市民や事業者が取り組むことが分かるよう記載してほしいと思います。

図 2.1.1 で、本計画がここであることを暖色等で目立つようにしてほしいです。

69 ページのどんぐりやまプロジェクトは素晴らしいと思います。このプロジェクトは土作り、堆肥づくりから始めると思いますが、ごみをいかに減らしてどんぐりやまをつくるかという大きな取組であり、施策7とも通じることだと思いますので、それを意識して書いてもらえるといいと思います。子どもがエコの取組を体験できる良い事業だと思いますので少し説明を加えてもらえたらと思います。

再生可能エネルギーの最大限の導入において、発電して貯めて利用することは大事ですが、バッテリーやEV車は洪水時に感電の危険が考えられます。蓄電システムについては安全性を考えて高いところに置くことや、想定浸水深を想定して設置することなど、そういうことを意識して把握しておく必要があると思います。

事務局： 誰が取り組むか見えづらくなるので、図の中で示せるよう検討したいと思います。

どんぐりやまについては、子どもたちにとって小さな頃の記憶が大人になってもつながるので、効果的な方法を検討したいと思います。

蓄電池については洪水時に危険であることをご指摘いただきましたので、そう

いう周知もできるよう考えたいと思います。

どんぐりやまについて、木を育てることで人を育てるという理念でやっています。山というのも、理念としての山を指しています。どういうふうにしていくか課題も多いですが、広げていきたいと考えています。

副会長： 実効性を高めて、城陽市のすばらしいどんぐりやまをプロセスも含めて取り組んでいただきたいと思います。

委員： 対策の中でアップデートされているものもあり、包括的に書かれていると思いますが、これまでの延長線上であったり、これまでと同じものもあり、脱炭素に向かうには弱いと感じるところもあります。

16 ページで、京都議定書はまだ残っていますので、書いていただきたいと思います。

第3章に入ればと思いますが、エネルギー使用によって、市から多大なお金が流出していることは、市民にとっても重要なことだと思います。出ていくお金は市内総生産の10%にあたるので、どのぐらいのお金が出ていき、脱炭素が実現することによってそれが市内に残ることを記載してはどうでしょうか。

60 ページの環境家計簿のコラムは、あっていいと思いますが、敢えて入れる必要はないかと思います。関心のない人にとっては目に止まらないと思うので、他の情報を入れてはどうでしょうか。

61 ページの環境マネジメントシステムについて、今は脱炭素経営の時代に入っていますので、地域の企業がそちらに向かっていく事業を入れるべきだと思います。サプライチェーン全体の脱炭素化に進む大企業に関連する中小企業は多いので、ここに入れてはどうでしょうか。

64 ページの下のコラムも敢えて必要ないと思います。

65、66 ページが重要で、市民や公共施設でどうやって再エネをつけていくかが書かれている必要があります。府の情報も入っていれば良いと思います。最近ではPPAが注目されており、自治体の予算を使わずに太陽光発電を導入する事例もあるので参考にされてはと思います。

66 ページのコラム、東京都でさらに強化した再エネ導入義務を作っていますので、そういうの見据えた取組があっても良いと思います。

EE 電の課題として、京都は参加率が低いこともあり、どういう課題があるか分析する必要があると思います。

太陽光発電について、グーグルマップで導入可能量を可視化することができるので着手されてはどうでしょうか。70 ページの低炭素型の交通については、脱炭素の名前にしないといけないと思います。下のコラムも敢えて入れる必要はないと思います。次世代自動車は世界的には電気自動車になっていますので、表現を変えていいかもしれないです。城陽市でどんなインフラを入れるか検討する必要があると思います。エコドライブのコラムも必要性は低いと思います。

また、こんな行動をすればこれだけ削減できるという根拠を示す必要があると思います。

ソーラーシェアリング、持続可能な農業についても書いた方がいいと思います。

84 ページの推進体制については、城陽市にはパートナーシップ会議があり心強いですが、もう一步脱炭素に向けた取組があればいいと思います。中間支援組織的なところがパートナーシップ会議でできたらいいと思います。PPA に取り組むことも可能性としてはありますし、良い仕組みになると思います。

事務局： どれをやったらどれだけ削減できるかの可視化は検討したいと思います。その他のご指摘も検討したいと思います。

コラムについても、一市民として関心がなかった人も、危機的状況が話題になり自分の身に降りてきている感覚がありますので、それも含めて検討したいと思います。

会長： コラムはアップデートすべき所もありますが、初めて見る人には必要なものもあるので精査していただきたいと思います。

委員： 生ごみの件について、ごみを燃やすエネルギーでかなり CO2 が出ていると思います。市民からすると、そういうところから少しずつ温暖化対策を進めていけたらいいと思いますが、市民レベルでは考えていない人のほうが多いと思います。堆肥をつくるか、公共のコンポストを作るとかそういうことを進めたほうが温暖化ストップにつながると思います。

この計画は良いと思いますが、公共や事業者が取り組む内容に見えます。一般市民の施策が効果があると思いますが、一般市民の計画はないように見えます。

どんぐりやまの取組について、植樹だけでなく、クマが人里に出たりするのを防ぐためにどんぐりを山奥に持っていくなどの取組もあると思います。

事務局： 生ごみについては、コンポスト化を周知啓発していますが、なぜコンポストにしないといけないか、ごみとして処理した場合、燃やすときに火力が必要だからといった周知が足りなかったと思います。今後周知したいと思います。

どんぐりやまについて、今回は試行として自然学習会とセットにしましたが、今後どのようなことを伝えられるか考えていきたいと思います。

会長： ごみについては施策3にあります。基本はごみを出さない、燃やすのをいかに減らすかがポイントなので、そのあたりを意識して進めていただきたいと思います。

委員： 自動車のガスが3割を占めるということですが、電車やバスだけでは行けない場所もあり、どうしても車になってしまいます。公共交通があれば車でなくて行けると思います。難しいかもしれませんが、さんさんバスを細かく走らせるなどできないのでしょうか。さんさんバスの停留所まで電車で行かないといけないという状況になってしまいます。さんさんバスを増やすという計画はありますか。

事務局： 交通機関が必要な一方、充足していないのは認識しています。さんさんバスは東

部地域で要望があり、路線改革の一環で調査をしましたが、賛成者もあれば反対者もあり、路線を増やすことが実現しませんでした。昨今バス会社の運転手不足が課題になっています。市としては新名神が開通して新たな交通基盤が整う中、変化を踏まえながら公共交通を検討しないといけないと認識しています。

会長： 脱炭素型の交通まちづくりのテーマに向けて、2030年頃には従来型の化石燃料の交通手段が電気自動車に置き換わる大きな動きがあると思います。本市でもあと5年もあればオンデマンド型の自動運転の巡回バスのようなものが走っていることも十分考えられます。電気自動車系の小規模な公共交通機関が利用できる時代になっていると思いますので、将来を見据えて計画されたいと思います。

委員： 25ページの図、距離感がおかしく農業ゾーンはそんなにならないと思います。脱炭素だけでなく、生態系の保持といった事も、将来的には考えないといけないと思います。

ごみについて、市民における取組は浸透するのが難しいので、市民に対してどうやって積極的にPRしていくかの具体策を載せるべきではないでしょうか。

事務局： 25ページの図は総合計画の図の引用になっており、わかりやすくイメージ化したものと思います。

生態系について、本計画はあくまで温暖化対策の計画なので明記はしてありませんが、取組自体はみどりの施策に含まれると考えています。

ごみについては、取り組むべきことを載せており、細かなPR手法等は周知啓発していく中で検討したいと思います。

会長： 施策4について、生態系保全について強調されればと思います。ごみのことももう少し書かれれば良いと思います。

副会長： 25ページの図について補足すると、これはゾーニングの概念図ですので、スケールは厳密には再現していませんとお考えいただきたいと思います。

先程のご意見について、低炭素型交通から脱炭素型交通に名称を変更するのでしょうか。低炭素にしている意図はありますか。

事務局： 本来であれば脱炭素型交通で載せたかったのですが、今の市の状況を考えたとき、まだ掲げられないと判断して低炭素になった経過がございます。

副会長： 脱炭素に向けてといった言葉を何か入れてはどうでしょうか。

委員： 81ページのデイリーエコチョイスの冊子は紙の冊子のみですか。デジタルでネット公開されていますか。いろいろな人に目を通してほしい内容なので、一般市民にも触れるようにして、もっと普及を進めるようにしていただけたらと思います。

事務局： パートナーシップ会議と龍谷大学で作ったもので、先日の環境フォーラムでお披露目したものの、まだホームページ等では公開しておりません。早めに出すようにしたいと思います。

委員： もっとPRしてほしいです。

会長： いろいろな世代向けの取組が簡単にわかりやすく掲載された良い資料ですので、

広く広めてほしいと思います。

委員： 目標は2027年度ですが、あくまでめざすべきは2050年度のゼロですので、市として明記する必要があると思います。

53 ページの目標の説明で、直線的に下げるとされていますが、もっと高い目標でもいいと思います。エネルギー情勢等から、2030年度までは厳しい状況にありますが、世界的には2050年よりも前にゼロにという競争になってきますので、そこを見据えて素晴らしい城陽を作っていくことをここに書いてはどうでしょうか。

太陽熱の利用は家庭でもオフィスでも重要と思います。太陽熱も入っている必要があると思います。

本計画とは別に、市民向けの啓発パンフレットづくり、SNSを活用した発信を考えていく必要があると思います。

会長： 太陽熱が一番効率が良いので、太陽熱をいれていただけると良いと思います。

2050年よりも前にゼロを実現するのは難しいかもしれませんが、検討いただきたいと思います。

本計画が策定されたら市民向けに広報いただくこととなりますが、市民が身近に取り組みする内容や、温暖化対策の必要性をわかりやすく解説したものが出来たらいいと思います。

委員： 市民向けの普及について、自治会単位などで脱炭素に向けて取り組んでほしい内容をPRしたり、質疑応答の機会を設けるなどはされるのでしょうか。

会長： 町内会や公民館等でのPR啓発活動などのことだと思います。

せっかくの計画ですので、市民に広げる地域懇談会のようなものだと思いますがいかがでしょうか。

事務局： 計画を作ったあと、市民や団体への周知方法は今後考えたいと思います。

他の課が出前講座をやっていて、地球温暖化対策も出前講座メニューとしてあるので、説明させていただくこともできます。

委員： 出前講座は興味のある人しか聞きにこないと思います。消極的な方にも伝わる普及方法を検討いただきたいです。

事務局： ゼロカーボンシティを契機に、広報誌でも温暖化対策に関するコラムを掲載し、取組を定期的にお知らせする機会は以前より増えています。興味のない人にも伝わる事が大事なので検討したいと思います。

副会長： 今日は原案の中身の審議をし、まずは計画を作ることが大事ですが、作った後、具体的に市民や事業者にどういうことをやってもらうかは、草の根的にやっていくしかないと思います。訴える力があるのは、ベストプラクティスを伝えることだと思います。小さい事例から大きい事例まで、いろいろな成功例を積み上げていき、それを町内会やさまざまな機会、HPに掲載するなど検討してほしいと思います。

いかに行動に移すかが大事です。

会長 : 良い事例を市で把握して周知していただくことを考えていただきたいと思いません。

委員 : 市民向けにコンポストのこと等環境の講座を開いていただけたらいいと思えます。持続可能な農業について、全国から講師を集めて講座を開かれている例もあります。来る人は興味のある人だと思えますが、公民館等でもいいし、小さなコミュニティでも企画していただければいいと思えます。

定期的に講座があると行く機会があるし、子どもの環境学習だけではなく市民向けに開いてほしいと思えます。興味を持つ人もでてくると思えます。つながりを増やして試行を進めてほしいです。

事務局 : 事務局から審議会にお尋ねしたいのですが、今回、本計画では、市の取組、市民、事業者、主体別に書くことで取り組んで頂く形にしていますが、市民等の取組をこの形で書くと押し付けのようになるのではないかという意見がございまして、この形でいいかどうか意見を伺いたいと思っています。

会長 : それぞれの担い手に取り組んでいただきたいことを載せており、そういう言い方でいいかどうか、本審議会として意見をまとめたいたのですがいかがでしょうか。

委員 : 押し付けとかそういう感じはしません。こういう計画を作っていたら、皆も考えを新たにしていただけると思えますので、良いことだと思えます。

地球温暖化は皆が考えないといけないこれからの問題ですが、興味のある人が少ないし、会合を開くということは難しいと思えます。お年寄りさまはまあいいかと思うし、働いている人は忙しい、若い人も興味がなかったり、忙しく行きたくてもいけない人も多いと思えます。パンフレットを出して、小さい冊子にしておくと、ふと興味を持ってくれるかもしれないし、良いと思えます。会合を開くのは難しいと思えますが、福祉センターなどで全体的に周知するのもいいと思えます。

会長 : 温暖化対策は一人ひとりの目標であると同時に、市の条例や計画で市民の目標としても脱炭素の方向性は明らかにされていますので、それに向けて市民としてどのような行動をするのが望ましいのか、具体的に個々の分野ごとに明らかにしたのがこの計画、そういう位置づけになると思えます。個人レベルで異なるところもありますが、城陽市民共通の目標が書かれています、という位置づけをすれば誰にでもわかりやすいと思えます。押し付けというより、市民が自ら担うべき責務、事業者が果たすべき役割と考えていただければいいと思えます。自分ごととして取り組んでいただく、というのがこの計画の重要なところだと思えます。

委員 : 市内の街灯はすべてLED化されていますか。

事務局 : 照度の関係で一部対応していませんが、ほぼLED化されています。

委員 : 交換が少ないなど自治会の負担も減っています。甲子園ではLED化で電力が60%カットになったとのこと。LEDになったことで助かっていることなどPRしたらいいと思えます。

委員 : 太陽光発電を設置したり、省エネ製品を買うのは、高くてできないこともありま

す。昔太陽光発電を設置しましたが、10年もたてば買い取り金額が減りました。還元がよくなるように考慮してもらえれば設置する人も増えるかもしれないと思います。

会長：省エネ機器もメンテナンスをきちんとしなさいといけません。メンテナンスをきちんとやると省エネ性能も維持され、更新するとさらに省エネ化します。買い替えやメンテナンスの広報、国や府の支援がありますので、積極的にPRされればと思います。漫然と使い続けると省エネにならないこともPRされればと思います。

オガザン：改めてパートナーシップ会議の活動が重要と認識しました。パートナーシップ会議としても、市民の一人ひとりが環境について考えていただけるような機会づくりを提供できるよう活動しています。

環境フォーラムは、第1回フォーラムから今年の21回まで毎年やっています。今年のフォーラムにおいても、多くの市民で満席になり、関心が高まっていると感じますが、すべての市民の意識を高めるのはまだまだ難しいです。今後も頑張っていきたいと思います。

また、どんぐりやまについて、どんぐりにもいろいろな種類があり、生物の多様性を感じたところです。世の中にもいろんな考えを持った人間がいる中で、地球を守るために一つになっていくことの大切さと難しさを感じています。みなさまもぜひ機会があればパートナーシップ会議に参加いただきたいと思います。

会長：パートナーシップ会議には、市民の活動を先導する役割を期待したく思っています。新しい試みにもチャレンジしていただきたいと思います。

本計画について、事務局には、今回のご指摘等を踏まえて今後のパブリックコメントに向けて検討いただくことで良かったでしょうか。

一同：異議なし。

会長：それでは本日の会議は、以上で終了させていただきます。

真摯な議論をありがとうございました。

以上